

ふじさわなんがく

企画展 「藤澤南岳没後100年祭」

開催期間：令和2年(2020)12月11日(金)～

令和3年(2021)1月11日(月・祝)

協力：城山顕彰会・塩江町歴史資料館

藤澤南岳は塩江町(現高松市塩江町)育ちの儒学者。小豆島の名勝『寒霞溪(かんかけい)』や大阪の『通天閣(つうてんかく)』の命名者としても有名です。

大正9年(1920)に79歳で亡くなり、本年が没後100年となります。

幕末から明治、大正と生きた儒学者・藤澤南岳の没後100年を記念して、書軸など関連資料を展示いたします。



関連講演会 **参加無料**

「中山城山における中国医学と 道教について」

講師 橋本昭典氏(奈良教育大学教授)

日時：令和2年12月13日(日)
午後2時～3時30分

場所：香南歴史民俗郷土館 第1研修室

定員：先着30名(要申込)

TEL 087-879-0717

高松市香南歴史民俗郷土館

〒761-1402 香川県高松市香南町由佐253番地1

TEL：087-879-0717

開館時間：午前9時から午後5時

(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)

年末年始(12月29日～1月3日)

観覧料：無料



藤澤南岳 肖像写真(関西大学泊園記念会所蔵)



ふじさわなんがく
藤澤南岳

天保13年～大正9年(1842～1920)

79歳で亡くなる。

ふじさわとうがい

讃岐引田村生まれ。藤澤東咳の長男。

名は恒、字は君成、通称は恒太郎、別号は
せいきょうし こうおう しちこうさい
醒狂子・香翁・七香斎など。

父である東咳は文政8年(1825)、大坂の関西大
学はくえんしよいんのルーツとなる漢学塾一泊園書院をつくり、その
後、南岳は泊園書院の二代院主を務め、数千人
もんじん
の門人を教育した。

慶応4年(1868)、高松に戻り、高松藩に仕え、
ぼしんせんそう
戊辰戦争後は藩の保全に尽力した。

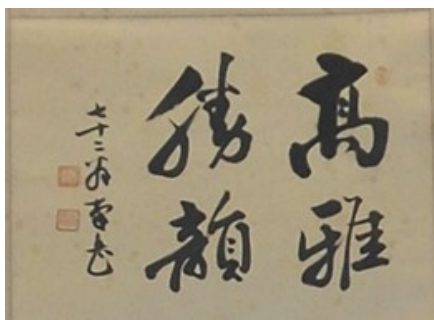
はくえんしよいん おぎゅうそらい こぶんじがく
泊園書院は荻生徂徠(1666-1728)の古文辞学
を継承。

南岳の父 藤澤東咳は、高松藩香川郡安原村
(現 高松市塩江町安原下中村)の農家に生まれ、幼い頃から高松藩香川郡横井村(現 香南
なかやまじょうざん
町横井)の儒者 中山城山に師事して荻生徂徠
の古文辞学を修め、非凡な才能を示した。

東咳が31歳の時に「泊園塾」(のちの泊園書院)
を開いている。



「和陶帰去来辞」南岳書 屏風
背面(当館蔵)



「南岳椋園梅堂合作」(軸)一部抜粋(当館蔵)

「南岳賛籃石菊」軸(当館蔵)